

教科・科目	言語文化	学年	2年	授業者	中林 亮
単元名	「学校生活における身近な『実体の美と状況の美』～私の感じる「美」を随筆で表現しよう～」				
教材	「実体の美と状況の美」高階 秀爾（『言語文化』大修館書店）				

#### 1 単元の目標

- 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。  
[知識及び技能] (3) ア
- 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] A書くこと (1) ア
- 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

#### 2 本単元における言語活動

帯広農業高校内で見つけた『美』をテーマにフォトエッセイを書く。

#### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国の言語文化の特質について理解している。 (3) ア	①「書くこと」において、自分の体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 A書くこと (1) ア	①フォトエッセイに書くことを通じて、我が国の言語文化の特質を理解し、自分の体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを粘り強く吟味し、表現したいことを明確にする中で、自らの学習を調整しようとしている。

#### 4 指導と評価の計画 (全6時間)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○全体の構成をつかむ ・本文を通読し、疑問点（語句・内容に関するもの）、キーワードを挙げる ・二項対立に注目し、西欧世界を日本の美意識の違いを理解する ○随筆の書き方を確認する	[知識・技能] ①	記述の確認
2	○本文から読み取った「実体の美」と「状況の美」を校地内で実際に探し、見つけた美を写真や動画に撮り、随筆にまとめる ○各自が見つけた美について書いた随筆を発表し、その美が「実体の美」と「状況の美」のどちらに該当するのかグループで共有する	[思考・判断・表現] ①	記述の分析
3	○グループで発表し合い、メンバーからの助言を踏まえて随筆文をよりわかりやすく直して提出する	[主体的に学習に取り組む態度] ①	記述の確認

## 5 単元の流れ

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 導入 ○「美しい」と思うもの（こと）は何か、各自の考えを話し合う  ○二項対立について再確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えがなかなか帰ってこない場合は本文にある「歯切れが悪い」答えと同じことを意識させる</li> <li>・現代の国語「水の東西」で学んだ二項対立に着目させる（今回の評論は東西の比較文化論と言うことを意識させる）</li> </ul>	[知識・技能] ① 我が国の言語文化の特質について理解している (ワークシートの記述の確認)
	2 本文における筆者の主張の把握 ○西欧世界の「実体の美」と日本人の「状況の美」について理解する ○随筆の書き方を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を解説するパワーポイント等の資料で「実体の美」と「状況の美」を整理する。</li> <li>・テーマを統一することを伝える</li> <li>・随筆の例を提示し、完成をイメージさせる</li> </ul>	
2	3 ○本文から読み取った「実体の美」と「状況の美」を校地内で実際に探し、写真や動画に撮る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけた「美」が、どちらの「美」に分類するかワークシートに書かせる</li> </ul>	[思考・判断・表現] ① 体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている (ワークシートの記述の確認)
	4 ○見つけた美を「実体の美」と「状況の美」に分類し、随筆にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらにも分類できないものがあればそれも記述させる</li> </ul>	
	5 ○各自が見つけた美に関する随筆をグループで発表し、その美が「実体の美」と「状況の美」のどちらの美になるのか全体で話し合い、自身の美の捉え方について確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いにより自身の意見が変化した場合それはそれも記述させる</li> </ul>	
3	6 まとめ ○話し合いを通じてよりよいものに直して随筆文を提出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元の随筆と直した随筆をそれぞれ提出し、変化した点を確認する</li> </ul>	[主体的に学習に取り組む態度] ① フォトエッセイに書くことを通して、我が国の言語文化の特質を理解し、自分の体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを粘り強く吟味し、表現したいことを明確にする中で、自らの学習を調整しようとしている (ワークシートの記述の確認)

## 6 学習指導案（5時間目／6時間中）

科目名	言語文化	単元名	学校生活における身近な『実体の美と状況の美』を随筆で表現しよう
本時の目標	教材で示された「美」の概念を踏まえて、自分が身の回りで感じる「美」を随筆で表現するために、表現したいことを明確にする。		

本時で取り上げる主な言語活動	筆者の主張を捉えた上で、学校生活における身近な「美」の具体例を随筆で表現する。		
教材	「実体の美と状況の美」高階秀爾	実施対象	第2学年
本時における評価の観点、評価規準、評価方法	本時の評価の観点	本時の評価規準	本時の評価方法
	書く能力	教材で示された「美」の概念を踏まえて、学校生活における身近な「美」を随筆で表現したものを発表し合い、相互評価を通じてより表現したいことを明確にする。	記述の分析（ワークシート）
学習活動（言語活動）	指導上の留意点		評価の実際
導入（5分） ・前時の内容、本時の目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに書いた随筆を確認する。</li> <li>・本時の目標を提示する。</li> </ul>		
本時のゴール：筆者の主張を捉えた上で、学校生活における身近な「美」を随筆にまとめ、発表を通じて助言し合い、より表現したいことを明確にする。			
展開（35分）			
①班内で発表を行う（1班4人程度）（10分） ・学校生活における身近な「美」の随筆を読み合う（1人1～2分程度）	①・「実体の美」と「状況の美」の違いを確認する。 ・前時までに書いた学校生活における身近な「美」の随筆を読み合う。 ・各自の発表時はタブレット等で自身が見つけた「美」の写真や動画を見せながら行う。		・「実体の美」と「状況の美」の違いを踏まえ、自身の経験に基づく考えを取り入れた随筆が書けている。（書く能力） 〈記述の分析〉ワークシート
②班で随筆の感想や意見を交流する。（5分）	②・各自の随筆文を聞いた感想や意見を話し合い、互いに助言する。内容が「実体の美」と「状況の美」に即したものが、随筆として面白い部分や共感できる部分等があるかを話し合う。 ・付箋を利用し、視覚でわかるような工夫をする。		評価規準 ・教材で示された「実体の美」と「状況の美」を踏まえて自分の考えが書かれている。 ・他者の随筆を理解し、自分の書いた随筆に生かすことができる。
③班の代表者が前に出て随筆を発表する。（10分）（1人1～2分程度）	③・発表を聞いた内容をワークシートに適宜メモするよう指示する。 ・写真や動画はGoogle Meetの画面共有を利用し、各自のタブレットで見ながら発表を聞く。		
④発表を聞き、自分の随筆でより表現したいことを明確にする。（10分）	④・新たな考えや発見があればワークシートのメモや付箋を元に原稿を直す。		・各自が発表した随筆で、より表現したいことを明確にしている。（書く能力） 〈記述の分析〉ワークシート
まとめ（5分） ・本時の目標を達成できたか振り返る。 ・次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材で示された「美」に即して分類できているか。</li> <li>・自分が伝えたい「美」が明確になったか。</li> <li>・直した文章を次回の授業までにGoogle classroom等で提出することを伝える。</li> </ul>		